

令和元年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
リーディング ハイスクール 事業の推進 ① 中高一貫教育の推進	(全校レベル)	中高一貫教育校のメリットを最大限に活かし、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中学生と高校生の良好な関係構築。中高教職員の緊密な連携による組織の活性化。 中高が連携したPTA活動の充実。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B (評定) (所見) 学校生活や教育全般に対する満足度について、生徒・保護者ともに昨年度より5ポイント向上し、評価指標を大きく上回ったことは、教職員として達成感や充実感を覚える。 しかしながら、中学生と高校生の良好な関係の構築に関しては、目標とした評価指標の65%に届かず、学校行事等に創意工夫が足りなかった点を反省する必要がある。 次年度から中等教育学校に移行していく本校にとっては、積極的に中高生の交流を図ることが、中学生の模範となると努力する高校生と、尊敬する先輩のようになりたいと頑張る中学生とが、互いに相乗効果を生み出し学校全体の活性化に繋げるための重要な鍵となることを、全教職員が理解しなければならない。	次年度はどのような観点で城ノ内中等教育学校生と城ノ内高校生との一体感を持たせるのか、分かりやすい説明が必要である。 今後は中等教育学校のメリットを生かし、行事だけでなく、英語や数学、総合学習等の授業においても、学年を超えた縦割り集団で共通体験を行うことが、子どもを成長させる機会となると思う。 6年一貫教育で閉じこもることなく、常に学校に「新しい風」が吹き込むよう工夫してほしい。	①中高合同の行事・作業・部活動・その他交流を行う機会を、さらに一層積極的に創設する。 ②すべての中高教職員が、同じ中等教育学校の同僚・仲間であるという意識をしっかり和抱き、これまで以上に緊密に連携を図るための組織づくりを行う。
			活動計画	活動計画の実施状況			
			①中高職員合同の会議を年24回以上、PTA役員会を年4回以上開催する。 ②中高合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に創設する。	①中高職員合同の会議を36回(運営委員会12回、中等教育学校移行検討会12回、人権教育研修会・コンプライアンス研修会など職員会議12回)、合同のPTA役員会を4回開催し、共通理解を図った。 ②学校祭、予餞会、防災訓練、人権映画会、総合学習発表会などを中高合同で開催するとともに、音楽部やバスケ部など多くの部で合同練習を行った。			
リーディング ハイスクール 事業の推進 ② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル)	授業の充実改善に積極的に取り組み、全生徒の進路希望実現を目指す。 (下位組織レベル) よりよい指導計画や指導方法の工夫・改善。全ての教師集団の協力による組織的な進路指導体制の構築。 確かな進路観や職業観の育成。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 A (評定) (所見) すべての教職員の熱心な取り組みにより、全評価指標において目標を達成することができた。また、すべての項目において昨年度のポイントを上回っている。この好結果に満足することなく、客観的に授業を振り返り、わかる授業、学力を伸ばす教育を目指して、さらに授業改善に取り組むことが大切である。 学年集会、進路講演会などは計画通り実施しており、生徒の反応は概ね良好であった。 講演会の満足度は、講師の選定が最も大きな要素であると思われる。今後も情報収集に努め、各学年の要望に合致した講師を探すことが求められる。 授業評価・学習実態調査について、予定通り実施できているが、実施だけに留まらないよう、結果の検証や事後指導のあり方について考えていきたい。	リーディングハイスクール事業の意義や目的を教職員がよく理解していることが、研究授業や授業研究会の回数、研究の深さから感じられる。 大学入学共通テストなど入試改革も見据え、今後もICTの活用やプレゼンテーション能力の育成に益々取り組んでほしい。また、夢を叶えた卒業生等を招く講演会は継続してほしい。 この重点課題に今後も教職員が注力していくために、業務の断捨離を実行していくべきだと思う。	①新入試や新しい学習指導要領への移行を控え、主体的対話的で深い学びやICTの活用等、新たに求められている指導法を用いた授業改善について、今後も調査・研究を続ける。また、先進事例の収集や紹介、教材の充実のための予算や時間の確保を、各教科会だけでなく学校全体として積極的に努める。 ②6学年を中心に大学入学共通テスト対策を行う。正確な情報収集に努め、進路指導課だけでなく、各教科・各学年と協力して迅速に対応する。また、より良い進路指導体制を構築するために、職員会や資料交換など情報交換会の機会を提供する。 ③小論文、面接等で個別指導を希望する生徒の増加が予想されるため、課題を検証しつつ、限られた人員で持続可能な指導体制を構築する。
			活動計画	活動計画の実施状況			
			①「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ①「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が90%以上。 ①「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ①「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者が85%以上。	①「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒89%(+6p)・保護者87%(+2p)・教職員98%(+4p)。 ①「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が98%(+2p)。 ①「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒84%(+5p)・保護者86%(+7p)。 ①「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒88%(+5p)・保護者85%(+5p)。			
			①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	①中高合同での研究授業・授業研究会を年8回実施した。また、主体的対話的で深い学びやICT活用についての授業研究会(外部へ公開)を年2回実施した。 ②授業評価を年2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会(4年4回、5年6回、6年6回) ・進路講演会(4年2回、5年3回、6年2回) ・総合的な学習の時間での外部講師による講演会等 ④学習実態調査(4年5回、5年5回、6年4回)及び進路希望調査(4年3回、5年4回、6年2回)を実施した。			

令和元年度 総括評価表

(評定) A: 十分達成できた, B: 概ね達成できた, C: 達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
人権教育の 推進	(全校レベル)	すべての教育活動 で人権教育の推 進を図る。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮し た指導が行われている」と答えた生徒・保護 者・教職員が80%以上。 ○「生徒は自分を大切に思う心が育ってい る」と答えた生徒が60%以上。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が 育っている」と答えた生徒・保護者・教職員 が80%以上。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行 われている」と答えた生徒85%(+5p)・保護者85%(±0p)・ 教職員96%(+6p)。 ○「生徒は自分を大切に思う心が育っている」と答えた 生徒83%。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と 答えた生徒72%(+4p)・保護者84%(+1p)・教職員 80%(+7p)。	総合評価 A (所見) 「人権に配慮した指導」については、達成度 が生徒・教職員で上昇し、生徒・保護者・教職 員とも指標以上を達成することができた。 「(生徒は)自分を大切に思う心」については、 達成度が指標を大きく上回った。 「(生徒は)他者を大切に思う心や態度」につい ては、保護者と教職員で指標を上回ることがで きた。生徒の自己肯定感を育むことを土台に、 他者を大切に思う心や態度の育成をはじめ、 人権感覚の醸成について継続して取り組む必 要がある。	素晴らしく高い達成度 (評価)を示している。 人権教育は、人として 社会生活を営んでいく 上で根本となる言動を 養う重要なものなので、 これまでどおり一人ひと りの人間を大切に考え る教育を継続していっ てほしい。 アンケート調査は、生 徒を主語としているが、 生徒を導く教職員や保 護者を主語とした問い かけもあつたほうがよい のではないと思う。	①人権資料『じんけん』をさらに活 用して、より生徒の実態に対応し た人権ホームルーム活動ができ るよう、研究協議や事前研修会を 充実させて実践する。 ②定期的に実施している学校生 活に関するアンケート調査等の結 果を活用し、生徒の悩みなどを把 握し、迅速に対応できる体制を整 え、いじめをはじめ人権問題の未 然防止と早期発見・対応を実行す る。 ③教科、特別活動等すべての教 育活動の中で、生徒の課題や配 慮すべき事柄への気付きと情報 を共有し、生徒の自己肯定感を育 むことができるよう留意し、学年 会、職員会を定期的に設定する。
	(下位組織レベル)	ホームルーム活動 や学校行事の充 実。	活動計画 ①人権学習ホームルーム活動の研究授業・ 研究協議、事前研修会を実施する。 ②人権問題意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会を実施する。 ④職員研修を校内で年2回、校外で年1回 実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業・研究協議を実施するとともに、毎 回、事前研修会を学年別に実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生対象に人権問題講演会を、また4年生対象に 「スマホ・ケータイ安全教室」を実施した。 ④中高合同の教職員研修会を校内で年2回、校外での 地域研修会を年1回実施した。			
基本的生 活習慣の確立 と道徳性の 涵養	(全校レベル)	学校は家庭と連携し、生徒の基本的 生活習慣の確立を 図る。また、いじめ を絶対許さない姿 勢を示し、いじめ の未然防止に努 める。	評価指標 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的生 活習慣の確立に努めている」と答えた保護 者・教職員が70%以上。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生 徒・教職員が70%以上。 ○「生徒は服装頭髪について校則が守られ ている」と答えた生徒・保護者・教職員が70% 以上。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守ら れている」と答えた生徒・教職員が60%以 上。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的生活習慣の確 立に努めている」と答えた保護者80%(+7p)・教職員 90%(±0p)。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒50%(+2p)・教 職員48%(-5p)。 ○「生徒は服装頭髪について校則が守られている」と答 えた生徒63%(-10p)・保護者92%(+2p)・教職員84%(+8p)。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と 答えた生徒57%(-5p)・教職員70%(+15p)。	総合評価 B (所見) 「基本的生活習慣の確立や家庭との連携」に ついては、概ね良好な評価であり、まずは落ち 着いた学校生活が送れている。特に保護者の 評価が上昇している。 「挨拶」や「服装頭髪」については、評価が低 かった。挨拶は社会生活や円滑なコミュニケー ションの基本であり、服装等の乱れは学校全体 の風紀や学校生活の取組全般に影響すること を認識し、日々の学校生活の中でさらに指導し ていく必要がある。 「いじめ防止」については、アンケートを定期 的に実施し、早期発見・対応に努めた。しかし、 アンケート結果に表れない場合もある。授業中 や休み時間等の観察や教職員間での情報の 共有など徹底し、継続的な取組が必要である。 「登下校時の安全、特に自転車通学」につい ては、事故の被害者・加害者にならないよう にルールの厳守を指導していく。また、事故に遭 遇した時に適切な対応がとれるよう、さらに指 導を徹底する必要がある。	あいさつの実施状況・ 達成度が低いことが課 題である。基本的生活 習慣が最も重要である ので、是非とも改善を 期待する。あいさつは 保護者による家庭での 習慣づけも大切であ る。 服装頭髪について ルールが守られていな いと答えた生徒が比較 的多いという結果もし 気になる。 交通法規やいじめ防 止対策推進法など、法 律を具体的に学ばせ、 ルールを守ることが社 会の基盤であることを 理解させてほしい。 ホームページ(相談 コーナーなど)を活用し て、生徒がいつでも学 校に相談や要望ができ るシステムづくりが必要 ではないと思う。	①5分前行動を心がけさせ、時間 を厳守させる。多遅刻者には生活 習慣の見直しなど家庭と連携して 個別指導を行う。 ②「5のつく日のあいさつ運動」を 拡充させる。生徒会と生活委員の 全面協力により、「5のつく日」の 前後一週間に渡って朝のあいさ つ運動を展開する。 ③服装頭髪指導については、月 毎の指導重点目標を決め、生徒 に周知させる。違反生徒には家庭 への電話連絡や家庭訪問など連 携を密にした指導を続ける。 ④いじめに関するアンケートの実 施等を通して、積極的認知、早期 発見、適切な対応に努める。 ⑤軽微な違反も重大な事故につ ながるという認識を持ち、ルール 厳守・マナー向上の励行を図る。
	(下位組織レベル)	「挨拶の励行」の 徹底。 服装頭髪指導の 徹底。 いじめの積極的 認知と対応。 交通ルールや交 通マナーの遵守に 向けての取組推 進。	活動計画 ①遅刻者には「遅刻指導票」を提出させる。 ②5のつく日に、朝のあいさつ運動を実施す る。 ③服装頭髪検査を定期的に実施する。 ④学校生活に関するアンケート(いじめを含 む)を年2回実施する。 ⑤毎月交通マナーアップ運動を実施する。	活動計画の実施状況 ①遅刻した生徒には「遅刻指導票」に理由を記入し提出 させ、教頭による指導後に入室させた。 ②5のつく日の登校時には、正門周辺で生活委員があ いさつ運動を実施した。 ③定期的(各学期2回)に、全校集会や学年集会で服装 頭髪検査を実施した。 ④いじめに関するアンケートを年3回実施した。内容に ついては、面談で聞き取り、事象に応じて対応した。 ⑤毎月の学校安全の日(20日)には、登校時に教職員に よる立ち番指導を実施した。			

令和元年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す		学校関係者の意見	
本県の重要課題を見据えた教育の推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		総合評価はCとなっているが、防災教育はA評価ではないかと感じる。 防災教育や主権者教育等に関しては、上級生が下級生の前でワークショップするなど、生徒が教える側にもまわらなければならないようにすれば、責任感が芽生えてよいと思う。 教員を目指す生徒を増やすことは教育界にとって重要事項の一つである。そのためには、やり甲斐があることを実感させるだけでなく、部活動は外部コーチに依頼したり、生徒の完全下校時刻を18時台としたりするなど、膨大な業務の棚卸し・改善に取り組んでほしい。	①防災教育の課題としては、防災計画や訓練の実施計画をより現実に合わせてものに修正を加えていく必要がある。また、防災クラブの活動を今年度以上に活性化できるよう、校外の研修会などに積極的に参加したり、校内活動についても自主的積極的に参加できるように体制を構築していく。 ②主権者教育については、公民科の授業やHR活動、学校行事を中心に、より視点を明確化するとともに、指導内容や方法を改善し、より実効ある取組を推進する。 ③消費者教育については、身近な「エンカル消費」について知り、「エンカルな行動をしよう」という意識を高める取組を実施する。 ④教職員の超過勤務縮減のため、次年度から生徒の完全下校時刻を30分前倒しし19時30分とすることにする。また、電話対応の時間帯を7時から19時に設定する。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	(評定)	C		
環境教育の推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		音楽とともに気持ちよく清掃する習慣が身に付いていることは素晴らしいと思う。 短い清掃時間の割には手際よく掃除ができていと思うが、掃除道具の整理整頓や中庭の除草状況については、なお一層の努力の必要性を感じる。 環境教育については、SDGsを取り入れた計画を立てることを検討してほしい。各目標の達成がSDGsのいずれのゴールに繋がるかなど、SDGsを積極的に活用するべきである。	①4月当初に清掃の手順を生徒に丁寧に指示する。また、普段から生徒に清掃の意義を伝えるとともに、主体的に清掃活動に取り組むよう指導する。 ②ゴミの分別や節電・節水については、教職員がこまめにチェックして回り、その都度気付いたことを注意しながら、生徒の意識を改善する働きかけを行う。 ③整美委員や保健委員が発行する「環境・保健新聞」をさらに充実させ、エアコンに関するルールの遵守なども含めて、生徒の意識を高揚させる。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	(評定)	B		

令和元年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す		学校関係者の意見	
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事や部活動を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒89%(+6p)・保護者92%(+2p)・教職員90%(-3p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒77%(-3p)・保護者80%(-3p)・教職員67%(+2p)。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒64%・教職員77%。	総合評価 (評定) B		学校行事や部活動から学ぶものは多いが、メリハリが重要である。また、6年間の中での適切な運用と1年間の中での適切な運用の両面の視点が必要である。生徒が入部を考えると、各部活動における活動時間や練習内容等が分かるよう、ホームページ等に掲載してほしい。 部活動と勉強の両立を重点目標に掲げているが、教職員の働き方改革も考慮に入れて、学校における教育活動全体の時間の使い方から検証し見直す必要がある。	①中等教育学校移行の前年度として、学校行事を一部改善したが、残り数年間で効果的かつ体系的に移行できるよう、微調整しながら改善を実施していく。特に城ノ内祭については、これまでの内容も踏襲しつつ、生徒の安全に留意しながら、より自主的でエネルギーギッシュな活動的ができるよう、計画を再確認する。 ②部活動については、各部が効率のよい練習を工夫し、生徒が部活動と勉強の両立を図れるよう努めていく。また、次年度から部ごとに年間活動計画(統一様式)を作成し、ホームページに掲載して保護者に周知する。 ③生徒会活動や委員会活動については、各種の運動・SHRでの呼びかけ・新聞発行等をさらに充実させ、生徒が自主的に生き生きと活動に取り組める場を設ける。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実。部活動の活性化。部活動と勉強の両立。	活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化できるよう広報やPRに努力する。 ③部活動の効率化や考査前の活動自粛など、部活動と勉強の両立体制を確立する。 ④生徒会委員会活動を活発化させる。委員会活動が計画や反省ができるよう時間を設ける。	活動計画の実施状況 ①文化祭、体育祭、球技大会などの学校行事は、生徒会主体に運営され、生徒も積極的に参加した。 ②部活動加入率は4年生87(昨年83)%、5年生84(昨年79)%、6年生71(昨年84)%であった[4月現在]。 ③全部活動で、考査期間中の活動を届出制とし、試合等が近い部に限り原則1時間以内という制約を設けて実施した。 ④活動目標を協議する時間を長くとれるように設定した。各委員会でも前年度の活動よりも活動内容を増やしていた委員会が複数見られた。	(所見) 評価指標上の目標は、ほぼ達成できている。部活動の入部率は、6学年においては低下したが、4、5学年では増加した。 学校行事は、ほとんどの生徒が主体的・積極的に取り組んでいる。 部活動に対する教職員の評価の低さは、超過勤務時間の短縮が推奨されていることもあり、特に運動部が活動しにくい状況にあると認識されていることも影響している。 生徒会や委員会等の活動については、「人権通信」や「環境・保健新聞」など、活動内容が活性化された委員会等が見られた。			
開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) ホームページを充実し、学校を公開する機会をつくる。また、地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が80%以上。 ○「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は、本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「自然体験活動やゴルフ研修など地域資源を生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者85%(+1p)。 ○「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は、本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者94%(+1p)・教職員86%(-2p)。 ○「自然体験活動やゴルフ研修など地域資源を生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒83%(+2p)・保護者85%(-2p)・教職員87%(-1p)。	総合評価 (評定) A		ホームページによる情報公開はしっかりと出来ているので、教職員の負担増にならない範囲で、今後も内容を充実させ継続してほしい。特に、中等教育学校の素晴らしさを積極的にPRするべきである。 また、ホームページについての技術的工夫については、本校の卒業生でメディア情報発信のプロフェッサーになっている方などからの協力を得るのも方策の一つである。	①各部、各課に依頼して、ホームページの新着記事を増やし、さらに充実したものにする。また、新聞やテレビなどの取材に積極的に応じて、学校のPRに努める。 ②中等教育学校への理解、周知に向け、スクールガイドや学校公開の日、文化祭等の内容の一層の工夫・充実を図り、広報活動にも力を入れる。 ③地域に根ざした体験的活動である自然体験活動とゴルフ研修は、本校の生徒にとって貴重な行事である。自然体験活動は次年度で最終となるが、それに代わる4年生での新しい行事を企画し、再来年度に取り入れる。
	(下位組織レベル) ホームページ等を通じた情報発信の充実。中学生体験入学や学校公開の日、文化祭の公開など学校公開の機会の充実。地域に根ざした体験活動・行事の実施。学習成果の発表、外部の人材や教育機関等との交流機会の充実。	活動計画 ①ホームページの更新にすべての教員が関わり、週2回以上更新する。 ②スクールガイドを充実させる。 ③自然体験活動やゴルフ研修など地域資源を生かした多様な行事を実施する。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は811,262回(昨年比56%増)、総アクセス数は4,578,151回であった[2月現在]。 ②本校の特色や重点目標がより鮮明になるようレイアウトを改善したスクールガイドを発行した。 ③4年生で自然体験活動(4月)を、6年生でゴルフ研修(7月)を実施した。	(所見) 開かれた学校づくりに関する評価指標の目標は、すべて達成できている。体験入学、文化祭や学校公開は、本校を理解してもらうのに効果的であると判断できる。今後も充実させながら継続していく必要がある。 ホームページも活発な情報発信を継続できている。年間アクセス件数が2年間で1.8倍増加した。 9月と12月の2回、本校において中学生とその保護者、教員対象の高校説明会を開催し、参加人数は昨年並みで参加者からの反応は良かった。 8月に中学生体験入学を実施し、参加者は23校より158名(昨年度144名)であり、「参加して良かった」との回答が多かった。10月に「学校公開の日」を実施し、参加者は658名(昨年度628名)であった。			